

太田フィルハーモニー交響楽団

第11回 演奏会

ota

philharmonic

orchestra

2010年1月31日(日)

開演 14:00

笠懸野文化ホール・パル 大ホール

主催：太田フィルハーモニー交響楽団

後援：太田市教育委員会

【ご挨拶】

本日は太田フィルハーモニー交響楽団・第11回演奏会にお越しいただき、誠に有難うございます。本来ならば太田市内で開催したいところですが、前回に続き今回もこのパル大ホールで行うことになりました。しかしながら音響効果の素晴らしいここで演奏できるのは演奏者としては嬉しいことでもあります。

お聞き下さる皆さんと、ご理解・ご協力頂いている多くの方々に支えられて第11回という新たな音楽の旅に踏み出すことが出来ました。音楽美と合奏する喜びの中で、太田フィルの活動は途切れることなく未来に限りない夢と希望を紡いでゆくものと信じております。

どうぞ、これからも変わらぬご支援下さいますようお願い申し上げます。

今回はブラームスの第4交響曲をメインに据えましたが、この交響曲、いたる所、連綿たる抒情と魅力的な美しさに溢れています。けれども、割りと単純なメロディなのに急速なテンポの分散和音で飾り立てるような所が多々あり、バイオリンをはじめとする弦楽器群における演奏技術は相当に難しく、演奏者泣かせとも言えます。第4楽章では始まると程なく2オクターブを超える広い音域を使った8小節にわたる大艶歌調の歌がバイオリンに出て来ます。そこで上手くいった、とホッとしていると直ぐさまそれが忙しく変化して行きますので一瞬の気の緩みも許されないことになります。そしてエンディングの興奮と緊張へと全パート一丸となって進んでいきます。どのパートも一度コケたら面白くなりますので沢山の音符と必至の格闘です。最後の一音まで事故なく辿り着きたいと思いながら全員頑張って練習して参りました。

どうぞ終わりまでごゆっくりお聴き下さいますよう、お願い申し上げます。

太田フィルハーモニー交響楽団
団 長 佐藤 英臣

【プロフィール】



指揮 直井 大輔

1971年東京生まれ。武蔵野音楽大学音楽学部器楽科でトロンボーンを前田保氏に、バス・トロンボーンを井上順平氏に師事。在学中から指揮者を志し、指揮法を山崎滋、エンリケ・マッツォーラ各氏に師事。1993年より巨匠ウラディーミル・フェドセーエフ氏と親交を持ち、指揮の手ほどきやアドバイスを受けている。

1997年、東京芸術大学音楽学部指揮科入学。指揮法を佐藤功太郎、小林研一郎、ハンス・マルティン・シュナイト各氏に師事。同年、新国立劇場オープニング公演ワーグナー「ローエングリン」のアシスタントを務め、以後、二期会オペラ等の副指揮者として佐藤功太郎、若杉弘、岩城宏之、他各氏の下で多くのオペラ製作に携わるとともに、ロ

ジェストヴェンスキー氏による東京芸大『世界のマエストロを迎えて』シリーズ第1回公演にて、ハイドン「四季」の合唱指導アシスタントを務めた。全国4つの国公立芸術大学が参加する合同オーケストラ等の公演に3年連続出演、旧奏楽堂『木曜コンサート』にも二度にわたって出演し、指揮者を務めた。

藝大フィルハーモニアによる学内演奏会では、ラヴェル「ダフニスとクロエ第二組曲」を指揮し、小林研一郎氏に『オーケストラから素晴らしい響きを見事に引き出した』と絶賛される。杉木峯夫氏（水戸室内管弦楽団首席奏者、芸大トランペット科教授）の推薦により、大学等地域開放特別事業『吹奏楽を楽しむ』演奏会の指揮者を務め、練習風景からのその模様は、NHKラジオ、新聞、CATV、雑誌などのメディアを通じて報じられている。

早川和子氏（現音作曲新人賞審査員長）の新作オペラ「師門物語」で指揮者に抜擢されデビュー。2003年、秋篠宮妃殿下、内親王殿下ご臨席のオーケストラ演奏会で指揮者を務め、2004年には藝大シンフォニカ英国公演に同行。岐阜県指定有形民俗文化財「かしも明治座」にて行われた公演で東京芸大の教授陣と共演し、その模様は読売新聞日曜版のトップ記事に掲載された。

2004年度、東京芸術大学音楽学部非常勤講師。別府アルゲリッチ音楽祭「子供のための無料コンサート」で金聖響氏と共演。また附属高校オーケストラの指導でも認められ、2005年度には同大音楽学部附属音楽高校非常勤講師を務め、定期演奏会でストラヴィンスキー「火の鳥」などを指揮し、大成功をおさめた。

広島交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団などをはじめ、各地の演奏団体に招かれ、その活動は各方面で好評を博している。千葉市音楽協会会員。

ブラームス：大学祝典序曲 Op.80
ハチャトゥリアン：組曲《仮面舞踏会》
Ⅰ．ワルツ
Ⅱ．ノクターン
Ⅲ．マズルカ
Ⅳ．ロマンス
Ⅴ．ギャロップ

～ 休憩 ～

ブラームス：交響曲第4番 ホ短調 Op.98

【曲目紹介】

ヨハネス・ブラームス 大学祝典序曲 Op.80

ブラームスの作品中で管弦楽曲というのは比較的少なく、しかも歌劇を書かなかったので序曲となるとこの大学祝典序曲と同時に書かれた悲劇的序曲だけとなる。管弦楽作品には慎重な姿勢を見せていたブラームスだが、交響曲を立続けに2曲書いた後にこれらの序曲は書かれており、管弦楽曲に対してある程度の自信を持って臨めた作品であると考えられる。大学から名誉博士を授与された事に対する返礼作品であり、当時のドイツで有名だった4曲の学生歌から構成されている。曲調、構成共に一筋縄で無い所がブラームスらしい。祝典序曲なのに短調で始まる冒頭はブラームスの創作である。

どの作曲家にもオーケストレーションに於ける癖と言うか、楽器の使い方に特徴があってそれが音響の個性となる訳だが、この作曲家の場合、よく言われる中低音重視の他にもチェロにピアノのアルペジオをそのまま写した様な音域の広いピッチカートを要求する事が多く、これがチェロ奏者の反感を買っている。この序曲はその最たる例である。

アラム・ハチャトゥリアン 組曲《仮面舞踏会》

劇付随音楽として書かれた中から5曲を選んで編まれた組曲。劇自体は不倫の妄想から妻に対して殺意を抱き、舞踏会中で毒を盛って殺害するという悲劇である。最近ではワルツがフィギュアスケートで使用され、ラフマニノフの様に取り敢えず有名になった。5曲の中でも第1曲ワルツと第4曲ロマンスは暗さの中に妖しさを備えているが、これは妻を殺害する舞踏会の場面で使われる音楽であり、その妖しさからは主人公の嫉妬心を想像する事が出来る。妙に軽快な第5曲ギャロップは劇の観客用に書かれたもので、劇の内容とは全く関係が無い。余談だが、筆者がこの音楽を知ったきっかけはテレビで美輪明宏登場の際に流れたワルツを聴いた事に因る。曲の妖しさが美輪の妖しさ(怪しさ?)と良く合っているとの印象を受けたが、美輪自身がこの曲を相当気に入っている故の選曲であつたらしい。

ヨハネス・ブラームス 交響曲第4番 ホ短調 Op.98

短調の交響曲はそこそこ存在するが短調で終わる交響曲は珍しく、有名所ではこの第4番、モーツァルトの第40番、チャイコフスキーの第6番、マーラーの第6番くらいである。そんな暗い交響曲について作曲者は聴衆の反応をととても懸念しており、完成を伝える手紙でも曲を熟していない果実に例えて「こちらの桃は甘くないので口に合わないでしょう」と自嘲気味に書いている。更に身内だけで行われた2台ピアノによる試演会での反応は冷たく、第1楽章が終わっても誰も口を開こうとせず、搾り出された感想も「楽章の最初から最後まで殴られっ放しの気持ちだった」というものだった。

この作曲家は生きた時代に反して古風な作風を信条としていた。この交響曲第4番もそれまでと同様にソナタ形式に忠実であり、変奏曲形式による第4楽章に至っては主題をJ.S.バッハのカンタータから引用している事を考えると、幾分ワーグナーを意識したオーケストレーションによる前作から見て原点回帰と思えなくもないのだが、ここにブラームスの斬新さがあると考えられるだろう。飽く迄古典的様式に従いながらもその内容は極めてロマン主義的であり、交響曲という箱には収まりそうに無いものを巧妙に収めている。恐らくこの曲の内側ではブラームス自身の人生に於ける絶望やら後悔が蠢いているのだが、それを吐き出すとしたら時代の流れからしてもショパンのピアノ曲やリストの交響詩の様に、若しくはチャイコフスキーの《悲愴》みたいに形式に捉われない方が合理的と思える。しかしブラームスには作曲に於ける信条からそれが不可能であり、結果として水と油みたいな関係の形式と感情的表現を乳化させるに至った。第1楽章主題は3度降下音形、第2楽章主題は教会旋法と言われると如何にも頭で考えた音楽の様で情緒なんて微塵も感じられなそうだが、実際は周知の通り厭世的且つ甘美である。成る様に成ったと言ったらそれまでだが、寧ろブラームスの場合はこの方法だったからこそ成功したのであろう。《悲愴》は見るからに絶望的で非常に分かり易い。これに対してブラームスは理路整然としながらも多くを語らない事で受け手に想像を促している。例えるなら、チャイコフスキーは見た目も味華やかな洋菓子、ブラームスは地味で甘さも控えめな和菓子といった感じだろうか。

第11回 演奏会 出演者

ヴァイオリン 1st

朝倉 郁子
狩野 幸子
◎黒沢 良夫
小島 昭二
佐藤 英臣
鈴木 美宏
多賀 春美
永山 友紀
井草 美樹 (賛助)
五位野 高史 (賛助)
松永 錦弥 (賛助)
山上 純子 (賛助)

ヴァイオリン 2nd

池田 直美
井上 譲
内田 幸延
大野 仁子
工藤 美保
○菅原 陽子
津久井 尚美
橋本 道正
小林 実 (賛助)
島野 徳久 (賛助)

ヴィオラ

饗庭 裕子
○♪岩瀬 裕実
高田 麻衣
田代 克
横塚 清恵
川島 とも子 (賛助)
後藤 典子 (賛助)
中嶋 英彦 (賛助)

チェロ

♪黒沢 紀代子
○齋藤 進午
田代 ひとみ
深町 健太郎
松浦 静子
山口 美枝
田島 啓視 (賛助)
森 貴弘 (賛助)

コントラバス

小林 正幸
○♪日戸 正敏
平塚 紀子
松村 一輝
小林 妙子 (賛助)
中西 秀夫 (賛助)

フルート

上村 知道
小池 淳子
♪白石 真奈美

オーボエ

♪福島 彩
松浦 京子 (賛助)

クラリネット

大塩 孝
桑原 淑江
♪高田 和久
和田 智加子

ファゴット

♪松本 和佳子
関本 ささら (賛助)
矢島 健 (賛助)

ホルン

秋場 裕美子
♪中野 孝一
星野 由樹
金子 昌弘 (賛助)

トランペット

♪大竹 実
松本 博行
澤口 大樹 (賛助)

トロンボーン

跡部 圭一
♪梅澤 慎二
木村 彰徳

テューバ

須藤 涉 (賛助)

パーカッション

飯塚 牧子
♪大川 智
井尻 誠 (賛助)
宇賀 透 (賛助)
若菜 真紀子 (賛助)

◎ コンサートマスター

○ パートトップ

♪ パートリーダー

<役員>

団長 佐藤 英臣

団員指揮者 田代 克

コンサートマスター 黒沢 良夫
低弦セクションリーダー 黒沢 紀代子
木管セクションリーダー 白石 真奈美
金管・打楽器セクションリーダー 秋場 裕美子

技術インスペクター 高田 和久
運営インスペクター 松本 博行
会計 桑原 淑江

※過去の演奏会

日時	演奏会	場所	指揮者	演奏曲目	作曲者
2007.12.9	2007ウィンターコンサート	大泉町文化むら	直井 大輔	バレエ組曲「くるみ割り人形」より カレリア組曲	チャイコフスキー シリベウス
2008.8.2	第9回 定期演奏会	新田文化会館 エアリスホール	直井 大輔	交響曲 第2番 ピアノ協奏曲 第2番	ラフマニノフ ラフマニノフ
2008.12.20	ウインターコンサート	休泊行政センター 多目的ホール	田代 克	第一部 アンサンブルステージ 第二部 クリスマスフェスティバル 他	- -
2009.6.21	10周年記念 第10回定期演奏会	笠懸野 文化ホール・パル	田部井 剛	交響組曲「シェヘラザード」 組曲「惑星」より抜粋	リムスキー=コルサコフ ホルスト

次回演奏会のお知らせ

日時：2010年8月8日(日)

場所：太田市新田文化会館(エアリスホール)

曲目：魔笛 序曲 (モーツァルト)
ピアノ協奏曲 (グリーグ)
交響曲第3番「英雄」(ベートーヴェン)

指揮：風岡 優

団員(楽器経験者)募集中!!

太田フィルでは一緒に音楽を楽しむ仲間を募集しています。

募集パート：全パートにわたり募集しております。
特にコントラバス、ファゴット、ヴァイオリンを大募集中!
練習日：毎週金曜日 午後7時～10時
練習場所：休泊行政センター 他
申し込み：下記お問い合わせ先に連絡下さい。
練習見学大歓迎です!

お問い合わせ先
HP：http://otaphil.symphonic-net.com/
E-mail：fwhv3343@nifty.com